



時事評論家 増田俊男

## 目に見えない米中冷戦

米中冷戦において、アメリカの対中戦略の中心は日本をはじめとする同盟国動員による対中軍事包囲網構築である。

本誌 5 月 1 日号で、「同盟国のふんどしで(中国との)相撲を取るアメリカ」という題で、アメリカは日本(防衛費倍額)をはじめ豪州(8 兆円相当の原子力潜水艦)など同盟国の防衛費負担で中国の軍事力を押さえようとしていると述べた。

米中軍事力バランスは実際のところ双方の通貨力にかかっている。

ドルと人民元の通貨戦争が見えないところで熾烈な戦いをしている。

ドルにも人民元にもアキレス腱がある。

ドルと金の交換制廃止のニクソンショック(1971 年 8 月 15 日)以来ドルはペトロ本位制(中東原油取引通貨)で支えられている。

サウジ主導のオペックが人民元を原油取引通貨に加えたらドル暴落必至、これがドルのアキレス腱である。

人民元は管理変動為替制で 1ドル 6.9 元前後に毎日調整される、いわば準ドルペッグ制である。

人民元を原油取引通貨に加える準備をしているサウジアラビアのリアルは 1ドル 3.75 レアルでドルにペッグしている。

中国はアメリカと言うお母さんの背中におんぶにだっこでお乳をもらって育てられ一人前になりつつある。

中国は母親(アメリカ)の背中から地面に降りようとしているがまだ足は地に着いていない。

サウジはまだお母さん(アメリカ)の背中におんぶしてもらっている。

中国もサウジもまだ乳離れしていないから親を倒すわけにはいかないのである。

私は 2022 年 7 月 15 日ニューヨークの Union League での CIA や国防総省の幹部の会合で「中国のアキレス腱」という題で講演をした。

まだ日程が決まっていないが、近々北京の国営シンクタンクで「アメリカのアキレス腱」という題の講演をすることになっている。

中国は外貨準備のドル資産を 130 兆円から 80 兆円まで縮小し、その分だけ金を増やした。

しかし中国はこれ以上ドル資産を売ると輸入代金が払えなくなるから売れない。

サウジも同じ理由で外貨準備のドル資産を縮小出来ない。

FRB の利上げでドル価(相対価格)は上がっているが、購買力正価(絶対価格)は時間と共に下げ続けていることが分かっているのに誰もドルを売れない。

市場でドルを売り叩くこともせず、また人民元を原油取引通貨にすることなく、ドル基軸を人民元基軸に切り替える恐るべき秘策がある。

ドル暴落のインパクトも与えない。

ユダヤ資本が準備している新金融体制にも支障をきたさない。

ワシントン DC とニューヨークの私に関係するシンクタンクへは事後承諾という危険を侵して、北京講演の前に今回の「小冊子 Vol.133」で詳細を述べることにした。

私の北京講演後、米中冷戦は全く新たな展開になるだろう。

しかしドルはアメリカの命だから、私が下手なことを言えば、私は必ず交通事故で死ぬことになる。

それでも私は読者の皆様がお亡くなりになったら、命日にお墓参りをするつもりになっている。